

を背景に、現在の日本のロータリーがどう考
えるかである。

日本とは文化も歴史もすべてが異なるところ
で生まれたブランド品を単に輸入するだけ
では、日本の土壌に定着し、育つとは限らな
い。しかも、外国ブランドそのものにも揺ら
ぎがある。それを端的に示す証拠は「職業
奉仕に関する声明 (Statement on Vocation-
al Service)」と「ロータリアンの職業宣言
(Declaration for Rotarians in Businesses
and Professions)」の二つを対比すること
で明らかになる。

「職業」に対する英文は、前者では「Voca-
tion」、後者では「Business」や「Profession」
の用語が使い分けられている。

前者はマックス・ウェーバーの天職のニュ
アンスが強く、「Service Above Self (超我の
奉仕)」といった、やや形而上学的・宗教的
ニュアンスをもつ概念として職業奉仕が位置
づけられている。後者は、シエルドンの「One
Profits Most Who Serves Best」の概念を包
括するものである。

現在のロータリークラブには、この二つの
柱に職業倫理論が覆いかぶさっている。宗教
を持たないとも言われるわれわれ日本人の職
業奉仕 (サービス) の理念はいかにあるべき
か。やはり舶来ブランド品の丸投げではなく、
日本の土壌の中で日本のロータリーのアイデ
ンティティーを持つために、それを十分議論
する必要がある。

職業奉仕とロータリー のアイデンティティー

福岡イブニング 守田 則一

職業奉仕はロータリーの真骨頂である。職
業奉仕の考え方には、大きく三つの流れがあ
る。

第一は、アーサー・フレデリック・シエル
ドンの「One Profits Most Who Serves Best
(最もよく奉仕する者、最も多く報らされる)」
の Profit と Serve の因果論的考えにヒントを
得て構築された考え方。第二は、奉仕の前
提となる職業を天職として捉え、マックス・
ウェーバー (ドイツの社会学者) の Beruf (天
職) の概念を前提に職業奉仕を捉える考え方。
第三は職業奉仕の究極は職業倫理という観点
から職業奉仕を捉えんとするものである。

これらは拠って立つところの価値観の違
いであり、どれが正しく、どれが間違いとい
う議論は意味をなさない。これら三つの考え